

新年度に向けての提案【教研部】

2024年（令和6年）4月1日

1 研究主題 <めざす授業の姿>

「生徒が創る学び」の実現
～粘り強さを育み、学びのつながりを実感できる授業づくり～



- 生徒自身が「やってみよう！」という好奇心を喚起する課題設定
→本時の振り返りから、次時の課題へつながっていく授業展開の構築
- トライ&エラーを実践できる授業
→「間違えた」「分からない」を安心して言える環境づくり
- 「記号接地」をテーマに学びを中心に据えた取組の推進
→知識技能を定着させ、知っていることを使って考えると分かることがたくさんあるという感覚を、生徒が実感できる授業づくり

2 具体的な取り組み

(1) 授業づくり

- 学びを自己認識し、調整する場面をもとに、主体的に学習に取り組む力を高める。
- 長期的な視野で、子どもの学ぶ過程の違いや、ペースの違いに対応した評価を行う。
- 授業に生徒が学んだことをふり返り、表現させる場面を設ける。
- 授業に生徒が自分の学び方を計画したり、選んだりする場面を設ける。
- 探究学習を全教科、総合的な学習の時間で行う。
- 指導と評価の一体化のための学習評価を行う。
- 検定等の取得に向け、学年・学級集団での学び合いの場を設ける。
(1年生日本語検定, 2年生文章検定を全員受験とする)
- クロームブックを活用した探究学習の場を設ける。

(3) 評価について

知識・技能

- ペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題を出題する。
- 知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図る。
- 生徒が文章による説明をしたり、各教科等の内容の特質に応じて、観察・実験をしたり、式やグラフで表現したりするなど実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を適切に取り入れていく。

思考・判断・表現

- ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループや学級における話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたりと、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど評価方法を工夫する。

主体的に学習に取り組む態度

- ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や、生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いる。
- 各教科等の特質に応じて、生徒の発達の段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、評価を行う必要がある。

<自らの学習を調整しようとする側面>

○自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなどの意思的な側面。

○生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるような発問の工夫をしたり、自らの考えを記述したり話し合ったりする場面、他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場面を、単元や題材などの内容のまとまりの中で設けたりするなど、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図る中で、適切に評価できるようにしていく。

○粘り強い取り組みを行おうとする側面、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みを評価していく。

(4) 検証及び分析

- ① 毎学期、生徒は教科別のアンケート（Google Classroom）を行う。
- ② 毎学期、教員は授業チェックシート（Google Classroom）を行う。

(5) その他<教職員全員で共有化すること>

- ① 授業あいさつ
 - ・校内で授業あいさつのやり方を統一して指導する。

<はじめのあいさつ>

チャイムが鳴る前に、学級委員は前に出ておく。

チャイムと同時に（教科係りの点検後）号令をかける。「起立、気を付け、礼、着席」

※ 椅子を入れさせ、気を付けをさせる。頭を下げた礼をする、着席がかかるまで座らない。

<終わりのあいさつ>

学級委員は前に出る。「起立、気を付け、礼、着席」

※できないときは必ずやり直しをさせることで、レベルの高い挨拶を指導する。

- ② 2分前着席

- ・2分前の予鈴で座る指導をし、教科係の点検を行う。その後学級委員は号令をかける。
- ・10分休憩は遊ぶ時間ではなく、授業準備のための時間であることを指導する。
- ・授業準備をしてからトイレ等に行くように指導する。

※ 2分前に着席していないことを授業の減点等の対象にしない。

- ③ 班構成

- ・各班に仕事を割り振り、学級内の仕事を分担する。（学年内でバラつきがないようにする）
- ・班の並びは各学年で統一する。席のローテーションはしない。
- ・座席表を作成し、担任との情報交流に役立てる。

<班の仕事>（例）

- 連絡黒板（時間割のホワイトボードの管理）
- 黒板（毎時間黒板を消す）
- 環境・掲示（電気、カーテン、窓の管理、掲示物の管理）
- 司会（朝学活・午後学活の司会）
- 集配・配り（配布物の管理）
- 生活（机、ロッカーの整理整頓）
- 給食衛生（給食の合掌・おぼんを洗う）
- ボランティア（その都度必要な仕事に取り組む）

※クラスの人数・班の数に応じて各学年で決めてください。

	教卓	
1 班	4 班	7 班
2 班	5 班	8 班
3 班	6 班	9 班

※ 3 年	教卓	
1 班	2 班	3 班
4 班	5 班	6 班
	7 班	

- ④ 朝学活・午後学活

- ・朝学活・午後学活ともに司会原稿【別紙参照】に沿って進める。

※ 学活の進め方は1つの型として提示です。

各学年・学級の様子に応じて臨機応変に15分間を使えるようにしてください。

例・日記を全員で記入する時間を確保する

- ・行事に向けて練習等の時間として活用する
 - ・テスト前は班ごとに教え合いの時間をとる
 - ・班員の仲を深める学級レクリエーションを行う
- その場合、教科反省をして班反省をカットするなど、担任裁量で行っていく。

○帰り学活での学力向上に向けた取組について

- 1 月曜に教科担から小テスト範囲をクラスルームで提示 午後学活で確認
 - 2 金曜の帰り学活で5分程度の学力テストを行う
生徒同士の他己採点・成績には反映しない⇒回収して、教科担保
 - 3 月曜の午後学活で返却 教科ファイルにとじていく。
1～3の流れを 国⇒数⇒社⇒理⇒英 の順で持ち回りで行う
 - 4 学期末テストで小テストの類題を出題
得点率の推移の検証 取り組みが有効であったかの検討を行う
- ・その他学級委員と連携し、よくまとめているがっちりノートの掲示や、ページ数・内容に応じて表彰をする等の取組を通して、生徒の学習意欲を高めていきたい。
 - ・小テストの状況に応じて懇談等で保護者とも連携をしていく。
 - ・実技教科については、試験発表中の放課後に質問の場を設ける。

⑤ 教科反省

教科係の仕事

1. 教科の先生に欠席者を伝える
2. 授業2分前に前に出て点検を始める

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">①「忘れ物をした人は立って下さい。」・・・記入する。②「今日の宿題は〇〇でした。忘れた人は立って下さい。」・・・記入する。③「次の時間は（も）～しましょう。」・・・係として、クラスがレベルアップするようなコメントを言う。 |
|--|

3. 授業が終わったら、すぐに先生に尋ねる

- | |
|--|
| <p>今日の授業の感想をお願いします。・・・記入する。</p> <p>次の授業の連絡はありますか（宿題・場所・持参物等）・・・記入する。</p> |
|--|

4. 午後学活の開始までに、連絡黒板に宿題などを記入する
5. 午後学活で、授業反省を発表する

⑥ ガッチリノート（自主ノート）

<目的> 子どもたちが主体的に学習するために活用させる。

- ・年度初めに1冊購入する。2冊目以降は各自で用意をする。
 - ・各教科の学習の仕方も一緒に配布し、使い方をレクチャーする。
- ※毎日の提出は強制しませんが、テスト期間の学習の意識づけなど、生徒の状況に合わせて、各担任で活用をしてください。

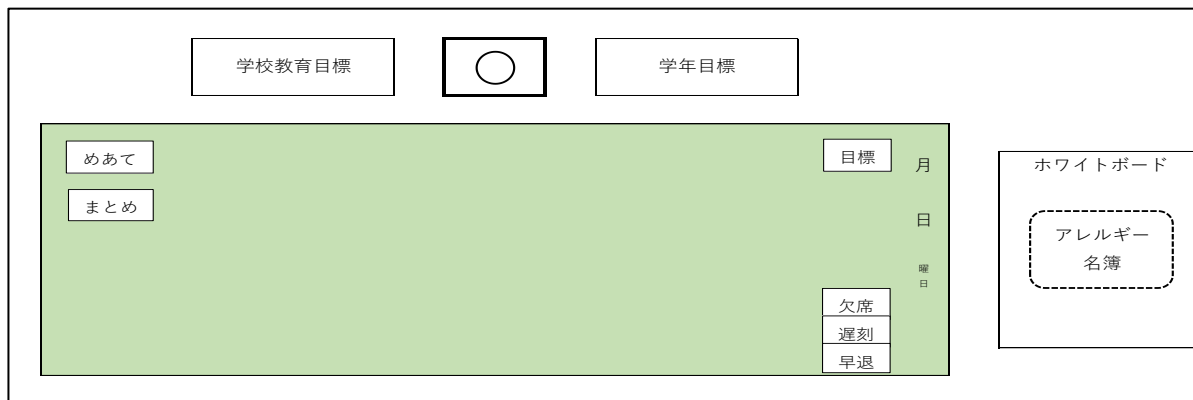
⑦ 毎日の時間割・日記

- ・時間割は Google Classroom を活用する。
- ・Google カレンダー等を利用し、先の見通しを持って生活できるよう促す。自分で購入した手帳を使ってもよい。
- ・日記など → 定期的に帰り学活で紙を配布し、書かせる。Google Classroom を活用する。

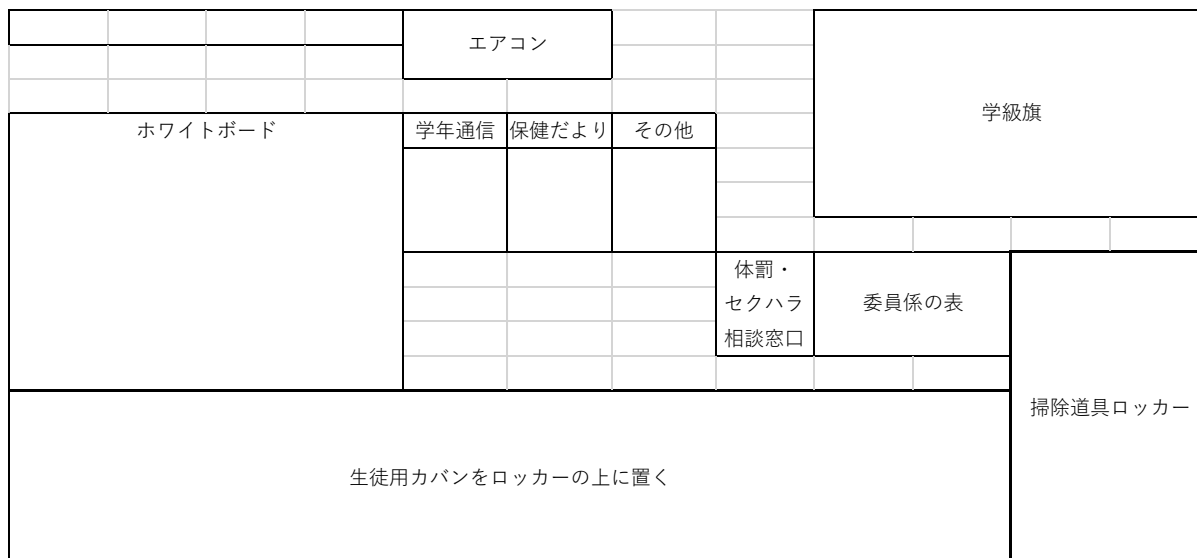
⑧ 教室掲示

- 黒板の上の壁面には、学校目標と学年目標だけを掲示する。
- 黒板の両サイドの壁面には、時間割等必要な物だけを掲示する。
- 係・委員の表は後ろに掲示をする。【別紙参照】
- 後ろホワイトボードは各クラスで有効的に活用する。
- 時間割のホワイトボード → 1週間分の時間割を掲示し、見通しを持たせる。
- すべての教室で、机の位置を床にマーキングしておく。
- 黒板に連絡事項を書かない。
- 給食の進め方のポスターを掲示する。
- 給食のアレルギー名簿は教室前のホワイトボードに統一して掲示できるようにする。

教室前



教室後ろ



※カバンが後ろに入りきらない場合は、壁際の生徒のカバンのみ、壁側の机の横にかけさせる。

⑩ 教育環境

- 放課後の環境整備、トイレのスリッパ、雑巾の整理など、学年で声を掛け合い、放課後の教室環境を整える。(特にトイレは、毎週末各学年でチェックをしていく。)
- 各学年のフロアに、工夫を凝らした掲示物を作成する。
- 校内に生徒の作品が多く展示することで、一人ひとりの輝きを評価し、自己肯定感や相互理解につなげる。
- 掲示物へのいたずらがあった場合、放置せず、すぐに取り組む。